

11/14(月)～、五感で中国を知ろう！
「中国文化週間」を開催

言語教育研究センターは、11月14日(月)から18日(金)まで、中国文化への理解を深めてもらおうと西宮上ヶ原キャンパスで「中国文化週間」を開催する。

2年前から始まった催しで、企画にあたる成田静香・文学部教授は「世界的に、中国の存在感は増しており、中国を理解することは、日本にとってますます重要になってきています。文化に触れ、それを楽しむことが、中国および中国語圏を理解するきっかけになればと考えています」と話す。

期間中、中国語を学んでいる学生や中国人留学生が協力し、「中国語プレゼンフェスティバル」や「中国語圏留学経験者・希望者交流会」の運営に携わる。また、二胡コンサート、写真展、中国料理フェアなど多彩なイベントがあり、五感で中国文化を味わうことができる。

※一般参加可、無料、申込不要

- 期間：11月14日(月)～11月18日(金)
- 場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

■主な企画：

[11/14(月)]

- 餃子パーティ ～一緒に作ってたべましょう～
15時10分～16時40分、生協食堂 BIG MAMA
※要事前申込

[11/15(火)]

- 留学経験者・希望者交流会
15時10分～16時40分、大学図書館ホール

[11/16(水)]

- 中国語プレゼンフェスティバル
16時50分～18時20分、大学図書館ホール

[11/17(木)]

- 二胡コンサート
16時50分～18時20分、社会学部チャペル

[期間中]

- 中国料理フェア 生協食堂 BIG PAPA、BIG MAMA
- 写真展 大学図書館

- 問い合わせ先：言語教育研究センター(0798・54・6180)

本資料に関する報道関係者からの問い合わせは関西学院広報室(TEL:0798・54・6017)までお願いします。

高校生初の快挙！公式発見で
ゲーム情報学研究会若手奨励賞を受賞

関西学院高等部3年生 中屋悠資さん
(数理科学部在籍)



北海道のサン・リフレ函館で8月5日から6日にかけて開かれた「ゲーム情報学研究会」において、数学レクリエーションゲームをテーマに研究発表をし(※1)、30歳以下の若手研究者のすぐれた発表に贈られる若手奨励賞を受賞した。2年前に新設された同賞の過去の主な受賞者は大学院生や大学生らで、高校生での受賞は初めて。



中屋さんは高等部のクラブ活動の一つである「数理科学部」に所属。チェス盤の上にあるクイーンを2人のプレーヤーが交互に動かし、一つの角のマスへ駒を移動させた者が勝ちとなるゲーム「Corner the Queen」の変種(クイーンの駒を将棋の竜王に変えたもの)を研究してきた。今回、必勝法を考えるために必要な値であるGrundy数を導き出すための公式を発見した。

「Corner the Queen」については、数学界で長年研究されているが、Grundy数を導き出す公式はまだ発見されていなかったため、今回の研究は高く評価された。数理科学部の顧問である宮寺良平教諭は「受賞のポイントは発見した公式がとてきれいだっただこと。それに加えて英語の発表がとても上手だった」と話す。

中屋さんは現在、日本数学会の唯一の高校生会員。東京理科大学で9月2日から4日にかけて開かれた「The 19th Japan Conference on Discrete and Computational Geometry, Graphs, and Games」(訳:「第19回 離散計算幾何・グラフ・ゲーム 日本会議」)という国際会議でも論文(※2)が審査を通過。別のゲームについて同じくGrundy数をテーマに英語で発表した。

※1 研究タイトルは「A Generalized Ryuoh-Nim:A Variant of the classical game of Wythoff Nim」

※2 論文タイトルは「Grundy numbers of impartial three dimensional chocolate bar game」